

ビフォー
アフター

3年生12月

三者面談シート

自校の指導ツールを他校の教師と共に検討し、各校の生徒特性に合った形へ改善を図る本コーナー。今回は、センター試験前に生徒、保護者、担任で志望校を確認する「三者面談シート」について検討する。

検討会メンバー



大分県立
中津南高校
遠藤源治
えんどう・げんじ

教職歴14年。同校に赴任して3年目。2学年担任。進路指導部。理科。「なぜば成る」の信条の下、夢に向かって挑戦し続けるタフな生徒を育てたい」



群馬県立
下仁田高校
高橋真人
たかはし・まさと

教職歴13年。同校に赴任して7年目。1学年主任。生徒指導部。数学科。「物事に謙虚に、楽しく取り組む大切さ、自らの姿を通して生徒に教えたい」



東京都立
青山高校
鎌田邦広
かまた・くにひろ

教職歴27年。同校に赴任して3年目。主幹教諭。進路指導主任。数学科。「目いっぱいやり切った!」そんな最高の笑顔で卒業してもらいたい」

検討

合理性を追求しながらも 志望先への熱意で進路を固めさせたい



遠藤 個別学力検査の出願をスムーズにするため、12月の三者面談

で、模試の成績推移を基に個別学力検査でどの大学に出願するかを検討しています。センター試験後にも三者面談は実施していますが、このシートを運用するようになってから、センター試験後に志望が大きく変わったたり、保護者と意見が衝突したりするケースが減少しました。

高橋 受験直前期に生徒にこれだけのものを書かせるのは、なかなか大変ではないですか。



鎌田 生徒自身に成績を振り返らせて、志望進路を具体的に書かせることはとても大切だと思います。

1月からは高校入試の関係で登校禁止日が増えるので、12月のうちに生徒、保護者と志望大を細かく検討しておくことは私も賛成ですが、もう少し生徒の負担が少ないものでもよ

いかもしれませんね。

遠藤 模試判定にとらわれて、安全志向になり過ぎる生徒もいますので、そうした生徒には「あと1カ月で○点上げよう」と声を掛け、入試まで前向きに過ごさせたいです。一方で、プライドの高さから、安全校となり得るような第3・4志望ではなく、高い目標ばかり書く生徒も散見されます。合格難易度のバランスが取れ、更に生徒の将来の目標に合った志望大を書かせたいです。

鎌田 「これだけ候補を挙げたのだから、どこかには入れるはず」と生徒自身が思い込むこともあるでしょう。一方で、教師が断定的に「センター試験が失敗したら、今挙がっている志望大には出願できない」などと言い過ぎると、生徒のモチベー

大分県立中津南高校・遠藤源治先生 3年生「三者面談シート」

ビフォー

シートは、三者面談の前に配布し、生徒に記入させておく。前・後期日程には6大学、中期日程には3大学を書かせる。

10月の進研模試（記述）と11月の進研模試（マーク）の判定を教科別に記入する。6月からの推移と、教科別の強み・弱みを明らかにすることで、生徒、保護者が納得して出願校を絞り込めるようにする。

狙いと機能

志望を固めさせて、センター試験後の出願校決定をスムーズにする

大分県立中津南高校では、国公立大を志望する生徒の割合が高く、センター試験前の三者面談では、個別学力検査に出願する大学を確認することが重要なテーマだ。遠藤先生は、志望大について6月からの模試結果（教科別得点推移や合格可能性判定など）と、センター試験と個別学力検査の配点、更に試験本番での目標点や得意・不得意の意識などを記入させ、生徒、保護者、担任が「これ1枚あれば、出願校の検討が可能」という情報網羅型のシートを運用している。

課題と解決策

- 3 入学後に後悔しない、納得感のある選択をするために、第3・4志望は志望理由を明記させる。
- 2 成績推移だけでなく、今後どれだけの成績伸長が必要か、目標設定も併せて行えるようにする。
- 1 負担感を減らすため、志望大を記入する欄の数を検討。「挑戦・実力相応・安全」と難易度のバランスが取れた志望となる仕組みをつくる。

シオンを下げてしまう恐れもあるので、生徒が自分で挑戦校・実力相応校・安全校のバランスが取れた志望大を書けるようになることが大切だと思います。

高橋 生徒や保護者の特性、学校の方針にもよりますが、「最後まで自分の志望にこだわろう」と決意を新たに出来るような面談をしたいですし、不本意入学を防ぐためにも、志望度の低い大学ほど志望する理由を明確にさせたいです。

遠藤 模試判定を踏まえた合理的な検討は大切ですが、入学後、「妥協してしまった」「行きたい大学ではなかった」と後悔しないよう、それまでの進路学習の成果を踏まえ、やる気の出るシートにしたいです。

学校プロフィール

大分県立中津南高校

◎全日制／普通科／共学／1学年約200人

◎2015年度入試合格実績（現浪計）／国公立大は、大阪大、九州大、大分大などに138人が合格。私立大は、慶應義塾大、早稲田大、同志社大などに延べ249人が合格。

群馬県立下仁田高校

◎全日制／普通科／共学／1学年約60人

◎2年次からアドバンスコース、ビジネスコース、カルチャーコースの3コースに分かれる

◎2015年度進路実績（現役のみ）／4年制大進学4人、専門学校進学21人、就職36人

東京都立青山高校

◎全日制／普通科／共学／1学年約280人

◎2015年度入試合格実績（現役のみ）／国公立大は、東京大、東京工業大、一橋大、京都市大などに108人が合格。私立大は、慶應義塾大、早稲田大などに延べ612人が合格。

検討会で明らかになった課題を踏まえ「三者面談シート」を改良！次ページで紹介します。

アフター

前期・後期日程から各3大学を挙げる。書いた大学の数によって、入試日程ごとに区別ける罫線は、生徒自身が引くようにする。志望順位の隣に「挑戦校・実力相応校・安全校」のいずれかを記入させる。

① 期、後期、それぞれ各3大学まで記入する。前期日程の大学も記入する場合は書き添い、後期日程の大学も記入する場合は書き添い。 ② ベネッセ主催の模試（ベネッセ主催の模試）の点数を記入する。ベネッセ主催の模試（ベネッセ主催の模試）の点数を記入する。ベネッセ主催の模試（ベネッセ主催の模試）の点数を記入する。										1. 「マーク模試」の得点と目標				2. 「記述模試」の偏差値																													
模試名称		ベネッセ A社		ベネッセ A社		ベネッセ A社		ベネッセ A社		ベネッセ A社		ベネッセ A社		模試名称				言語				数学				理科				社会				芸術				その他					
7月		8月		9月		10月		11月		センター		センター		あなたの目標				2次試験				1次試験				2次試験				1次試験													
記述														マーク														2次								1次							

志望順位の高い大学については、合格可能性判定を1段階上げるために、各教科で何点の積み上げが必要かを下段部分に記入させる。また、志望順位の低い大学については、同じく下段部分に志望理由を明記させる。

三者面談での保護者、担任からの言葉

君の決意

三者面談のゴールとして、「第1志望に向けて頑張る生徒（子ども）を応援する」ことを意識できるように、三者面談の中で保護者や担任から出てきたエールや、生徒本人の決意の言葉などを記入するスペースをシートに設ける。

また、センター試験前後、気持ちが不安定になりがちな生徒を励ますためにも、三者面談を前向きな機会にしたいという提案があった。そこで、シートの中に生徒へのエールや、生徒本人の決意を書き込む欄を設けた。このように、生徒の学習の履歴がデータとして一覧になっているだけでなく、志望進路への思いや決意などが盛り込まれた、言わば合理性と情熱が共存する三者面談シートを目指した。

情報網羅型として完成度の高い遠藤先生の指導ツールについて、今回の検討会では、出願候補として挙げられる志望大学の数を絞り込む代わりに、志望の順位によって三者面談で確認する情報の質を変えていくという提案がなされた。具体的には、志望順位の高い大学については、残り1カ月で合格可能性判定を上げるために、各教科で何点の積み上げが必要かを生徒に書かせ、面談で今後の学習の見直しなどを吟味する。一方、志望順位の低い大学については、志望理由を明らかにさせて、進学した際の納得度を保護者、担任で確認できるようにした。

「第1志望に向けて頑張る生徒（子ども）を応援する」ことを意識できるように、三者面談の中で保護者や担任から出てきたエールや、生徒本人の決意の言葉などを記入するスペースをシートに設ける。

改訂後の狙いと機能

このマークのある図版は、加工可能なデータとして、ベネッセ教育総合研究所のウェブサイト (<http://berd.benesse.jp>) からダウンロードできます。「HOME→教育情報→高校向け→生徒指導・進路指導ツール集」でご覧ください。

ビフォー アフター

活用

志望理由と「あと〇点」を明確にし、
入試本番に前向きに臨ませる

鎌田 前期・後期日程の志望を書く欄は、それぞれ3大学程度に

絞ってもよいかもしれませんが、あるいは、記入させる大学数は生徒に任せる考え方もあるでしょう。いずれにしても、志望大を書かせる際、挑戦校・実力相応校・安全校の3つに分類した上で、挑戦校には「判定を上げるためにはあと何点必要か」を教科別に記入させることで、11月時点での判定だけではなく、これからの伸びにも目を向けた三者面談が出来そうです。



遠藤 個別学力検査の
出願にはどんなパターンが考えられるか、センター試験の結果を想定しているケースについて考えておきたいです。しかし、あくまでも目指すのは第1志望ですから、そのためセンター試験までの1カ月を大切にしようという、意志確認を生徒、保護者としてたいです。



高橋 志望順位が低くなりがちな安全校には、「なぜ、その大学を志望するのか」を一言でも書かせることで、1・2年生での進路学習と矛盾がないかどうか、担任も保護者も確認しやすくなるはず

です。ともすれば、不本意入学の危険性が出てくる安全校は、合格可能性だけではなく、志望先への熱意や納得感にこだわらせたいですね。

遠藤 第3・4志望の志望理由を書けていない生徒には、三者面談の前に教師が大学の魅力を伝えて、納得度を高めていくことも必要でしょう。例えば、地方の公立大などには、学生への面倒見の良さが魅力のところもあります。しかし、そうしたことを知らない生徒は少なくありませんから。

鎌田 その大学が、自分が目指す専攻分野でどんな強みを持っているかや、大学院進学、



活用の流れ

1 三者面談までに、過去の模試の結果を振り返り、記入させる

2 志望進路への思いを大切にさせながら、挑戦校、実力相応校、安全校についての位置付けを説明した上で難易度のバランスを考えて記入させる

3 三者面談前に、未記入の欄が多い生徒については個別にフォローしていく

4 三者面談で生徒、保護者、担任が第1志望合格に向けて気持ちを高めるために、意気込みやエールを記入する

就職の面でどんな魅力を持っているのかなどが語れるようになること、志望順位が低い大学でも不本意に入学するようなことがなくなりますが、「第1志望ではなかったが、不本意ではない」と、生徒が胸を張れるようにしてあげたいですね。

高橋 三者面談も生徒の気持ちが高める場になりますよね。生徒の学びの足跡がしっかり記されたシートだからこそ、三者面談で生徒自身が感じた思いや決意、あるいは保護者や担任からのエールを書き込む欄を設けて、明るい雰囲気の中で三者面談を終えられるような

仕組みをつくるのも一案です。
鎌田 センター試験後、多くの生徒は個別学力検査に向けて、不安を抱きます。そんな時に、「先生や親に応援してもらった三者面談の時の気持ちを忘れないで頑張ろう」と思えるようなメッセージを書いてもらえたら素敵ですね。

遠藤 生徒一人ひとりが進路を実現する上で大切に行っていることをしっかりとくみ取り、入試本番までの1カ月を勇気付けてあげたいです。今日の検討結果を生かして、受験直前期の三者面談のあり方を今後も考えていきたいです。